

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム 愛の手 1階

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100030		
法人名	有限会社 ケアホーム愛の手		
事業所名	グループホーム 愛の手 1階		
所在地	盛岡市青山1丁目19-51		
自己評価作成日	平成30年10月12日	評価結果市町村受理日	平成31年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&ji_gyosyoCd=0390100030-00&PrefCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様ひとりひとりができることが異なるので、全員で和を作ることはむずかしい。貼り絵や作品作りを通して分担しながら取り組み、完成を喜び合える雰囲気がある。個性豊かだが和気あいあいとしたユニットである。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅街でスーパー、病院、障害者支援施設、中学校などが周辺にあり、バスの主要路線も近く、生活環境に恵まれた場所に立地している。法人の定めた運営理念や方針をより具体化するため、職員で話し合い定めた今年の理念「支えあうやさしい家」のもと、利用者と職員が共同の生活者として、利用者の経験と能力を生かし、調理や掃除などの業務を手伝って頂きながら、利用者に寄り添った支援に努めている。家族へは、「愛の手だより」、などを通じて生活状況をお知らせして、意見、要望を伺い、利用者の意向に沿った介護サービスを提供している。また、かかりつけ医や協力医との連携の下、家族の意向に沿って終末期における対応や看取りを行っている。運営推進会議委員の協力と職員の提案を生かし、より充実したサービスの提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム 愛の手 1階

2 自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール内に理念を掲げ職員が共有することで、利用者が安心して暮らすことができるようにしている	法人の運営理念のもと、職員間で話し合い、今年の理念を定め、利用者と職員が共同の生活者としての意識のもと、利用者の経験や能力を生かし、調理などの手伝いをいただき、支えあいながら、利用者の意向に沿ったサービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の回覧板の順番には入れていただいている 地域の行事の見学に行っている(さくらまつりとか文化祭など)	町内会に加入し、回覧板による地域の情報の入手や募金、草取りなどに参加している。公民館の文化祭や七夕、山車の見学、中学生の職場体験など、地域との交流に取り組んでいる。	新興住宅街という環境から、事業所と地域住民との関わりが薄く、地域住民との交流の機会や繋がりを作り、努めて事業所から働きかけすることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々とのかわりがうすくうまく貢献できていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催している 家族様、町内会長、包括支援センターの職員の方から頂いたご意見や助言は日頃のケアにつながっている	利用者の家族全員に案内し、出席できる家族の方から感想や要望等を伺っているほか、警察学校への働きかけやお祭り見学の手配、ゲストの消防署員による避難訓練へのアドバイスなどの委員の提案を業務に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ほとんどがメールのやりとりで済んでいる 提出物など不明な時は実際に足を運び指導をいただいている	市主催の法改正の説明会や研修会に出席し、知識や情報を得ているほか、メールや文書で各種情報が送られている。感染症予防や食中毒の対策の指導を得ているほか、認知症地域支援推進員への対応についての照会も受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本年度から身体拘束廃止委員会を立ち上げた 見守りを強化することにより拘束をしないケアをこころがけている	職員による身体拘束廃止委員会を開催し、研修会参加資料や他事例等も参考に話し合い、「身体拘束の適正化のための指針」を定め、職員に主旨を徹底している。玄関の施錠も夜間のみで、エレベータの使用も自由である。「チョット待って、止めて」などの言葉遣いを、職員間で注意し合っている。	

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から防止に努め、利用者様にあざなどの発見があったときは原因追究を厳しく行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	保佐人がいらっしゃる方がいるのでその方とは密に連絡をとっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わす時には説明をしご理解をいただいている なおかつ疑問点などが在ればいつでも応じている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など気軽に職員に話せるよう家族様とのコミュニケーションを大切にしている	日々の生活の中で利用者の意向を把握している。広報や担当職員手書きのおたよりで、家族に様子を知らせ、来所の際には意見や要望等を伺い、日用品の確保、手伝い、誕生日の食事など、業務に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員同士のコミュニケーションを大切にしている またカンファレンスでも意見を聞く機会を多くもち反映させている	職員会議では職員の意見を聞く機会を作っているが、日常的に管理者に意見や提案できる関係性ができている。休日の希望、急な勤務交代にも、お互いにフォローし合い、対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場(特に育児中の職員に柔軟な職場環境)になっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を職員がみえる場所に掲示している 職員が平等に研修に参加できるよう配慮している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会のブロック長になっているので(当番制)今回は特にグループホーム同士の交流があり、さまざまな情報交換ができています		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様からの情報をもとに、またご本人との会話や普段の状況から得られる情報をもとに、信頼できる関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所初期にはとくに家族様とのコミュニケーションを多くもち関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様の意見を聞きながら、その時々合ったケアをいろいろと試している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームを「家」ととらえ共に暮らしている一員として係るようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の協力を得ながら良い関係が継続するよう努めている 月に1度利用者の様子を記録した手紙をお渡ししている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の方がいらした時は個室対応し気兼ねなく過ごしていただけるよう配慮している	家族や親戚の訪問によるお土産や野菜の差し入れなどがあるほか、母の日の花のプレゼントがある。家族と一緒に美容院に出掛ける利用者もいる。散歩の際には、近所の方の声掛けもあり、新たな馴染みの関係が出来てきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る席など工夫し孤立することがないように心がけ良い関係づくりができるよう配慮している 雰囲気作りにも努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にもご連絡をいただいた時は対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、家族様の希望を第一とし対応している	日々の生活の中で利用者に寄り添い、意向を把握しているほか、経験や能力を活用し、レクリエーションや料理、掃除の手伝いなど、利用者と職員が共に生活者として過ごしている。入浴、排泄や外出などの要望にも配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所以前の生活歴などを把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のその日の体調や気分を考慮し対応している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様との面会時や日々の利用者さんとの会話などから得た情報をもとにカンファレンスで話し合っている	毎日の申し送りノートや毎月のカンファレンスを経て、3か月ごとにモニタリングを行い、医師の指示や看護師の助言などを反映させ、家族の同意を得て計画を6月ごとに作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チャートや連絡帳を活用し共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様個々の状況に合わせ支援を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は町内のサークルに参加していた方もいらしたが今は休止状態である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族様の意向によりかかりつけ医を決めている 特にない方はホームのかかりつけ医を紹介している	入居前のかかりつけ医3名、協力医への変更11名であり、協力医による訪問診療、感染症予防を行なっている。かかりつけ医、精神科などの特別科の受診は家族同伴となっている。緊急の場合は職員が同行している。歯科は訪問診療での対応が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師の資格を持つ者がいるのと、かかりつけ医院の看護師と相談したりアドバイスをうけたり良い関係が保たれている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況に応じて対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時から終末期の過ごし方について家族と話し合っている その時を迎えた時は家族、かかりつけ医と協力し対応している(実績あり)	かかりつけ医や協力医の指示により終末期の対応をしており、状態悪化時に家族に改めて意向を確認の上、施設内での看取りを行なっている。職員は経験を経るごとに新たな知識を習得し、体制は整ってきている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを備え付けているので、使用方法や救命講習会など開催している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している 運営推進委員会などで地域の協力をいただけるようお願いをしている	年2回、避難訓練を消防署員立会いで実施し、1回は夜間想定訓練を実施した。2階からは階段を使用し避難した。緊急情報は、市に登録しメールで入手している。避難場所、ハザードマップを確認し、AEDの訓練も実施済みである。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を尊重し声のトーンなどにも気をつけて失礼のないよう対応している	個人情報、個別にファイルし事務室で管理している。広報紙への写真掲載は家族の同意を得ている。行き過ぎた敬語は避け、親しみのある方言を使っている。利用者の手伝いは、前歴や知識、特技などを尊重してお願いしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けしてから対応するようにしている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が一方的に行うのではなく、利用者様の意向を優先するようにしている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服装など選んでいただいている 支援を必要とする方には清潔や温度調整に気をつけながら行っている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり、茶碗を拭いたりできることをお手伝いしていただいている 誕生会などでは嗜好をとりいれている 行事食を大切にしている	メニューは、職員が作成し栄養士が事後ではあるが確認している。調理は、1階、2階で主食、惣菜などを分担し、新鮮な旬の食材や差し入れの野菜で季節を感じる料理を提供している。体調に配慮しミキサー、トロミ食など提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節感を取り入れた献立を提供している 個々に食事形態を変えて提供している 食事摂取量が少ない方には高カロリー飲料などの補助食品を補っている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔清掃はかかさない 自分でできない方は職員が行っている			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄できる様支援している(時間誘導など) オムツをしている方は時間で交換している	一人毎の排泄チェック表を作成し、案内、誘導している。布パンツは3名で、他はリハビリパンツとパットを併用している。オムツ使用は1名いる。夜間のポータブルトイレの使用はなく、全員、トイレでの排泄となっている。センサーの使用はない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品は毎日摂るようにしている 下剤服用にはその方のパターンに合った工夫をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回1, 2階とわけずにバランスをみながら入浴している	一人週2回、午後の入浴となっており、機械浴対応の1階の浴室を使用している。2名は毎日夜には足湯とし、季節にはゆず湯を提供している。入浴時に会話を楽しむほか、大声を出し、リラックスしている方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ利用者様に合わせた対応をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬の変更や追加など把握できるように申し送りしている 服薬が完全にできるよう職員が支援し確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションを通して個々の得意分野がいかせるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけるよう努力はしている 個人の外出は家族様にお願いしている ホームの行事として年に1度外出レクを行っている	天気の良い日は、周辺の住宅地を散歩している。車椅子利用者も2～3名で出かけている。デッキでの日向ぼっこや外のプランターでの野菜の栽培や収穫をし、お花見、高松の池、七夕、公民館の展示見学にも出かけている。家族と買い物、外食、墓参に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでの金銭所持・管理はしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望にそい支援している。 電話の取次ぎも行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた貼り絵など飾ったりしている 色彩にも気を付けている	天窓と南向きの広い窓から明かりが射し、広々としたロビーにソファ、食事用テーブルが配置され、季節の飾りや作品、切花などがあり、開放感と清潔感が感じられる。吹き抜けを通し、1階、2階の話し声が聞こえ、和やかな雰囲気となっている。温度はエアコン、パネルヒーター等で管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの席を工夫したり、ソファを利用したりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様のなじみの物、思い出の品、安心できる物など持ちこんでいただいている	クローゼットが整備されているほか、ベッド、衣装ケースが常備されている。タンスやフuton、時計、ラジオ、カレンダー、化粧品が持ち込まれ、本人の行事の写真が飾られた意向に沿った配置となっている。温度はパネルヒーターで管理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	備え付けの手すりがあるし車いすの方が多いので移動する空間を広くとるようにしている		